

災害に備えていますか？

早めの避難が、あなたやあなたの家族を救う



5月10日に行われた町防災訓練での避難の様子（荒瀬公民会）

これから、集中豪雨や台風などの災害が発生しやすい時期を迎えます。災害の発生を止めることはできませんが、日頃から防災意識を持ち、対策を行うことで被害を軽減させ、「いざ」というときあなたとあなたの家族の命を守るのです。

風水害

さつま町では、これまで幾度となく台風や洪水に見舞われ、多くの被害を受けてきました。台風や豪雨は、襲来時期や規模をある程度予測できますので、災害への備えと気象情報の収集などがけ次第で、被害を軽減できます。

川内川防災情報
「早よ見やん川内川」



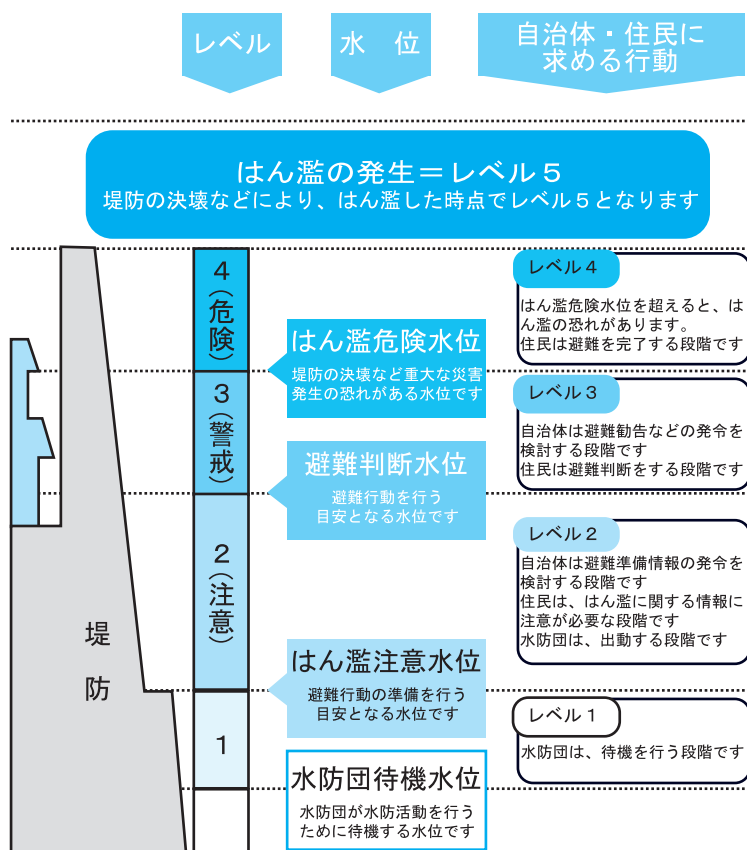
【携帯向け】

<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/keitai/index.htm>

【パソコン向け】

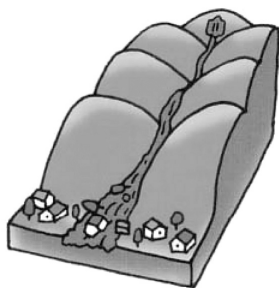
<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/index.html>
川内川流域の防災情報（雨量、水位、ライブカメラ）をリアルタイムで見ることができます。

■水位危険レベル



※危険度レベルは川内川の橋脚や護岸に表示してあります

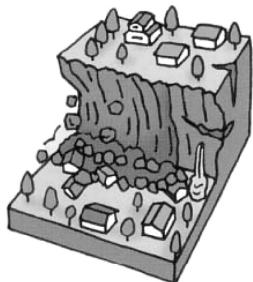
6月1日から6月30日まで 土砂災害防止月間です！



土石流

【前兆現象】

- 異様な山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 川の水が急に濁る
- 異様なおいがする



斜面崩壊

【前兆現象】

- 崖から水が湧き出す
- 崖に亀裂が入る
- 崖から小石がパラパラ落ちてくる
- 崖から異様な音がする



地すべり

【前兆現象】

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水が噴き出す
- 家や塀などに亀裂が入る
- 家や電柱などが傾く

土砂災害

さつま町は、周囲を山々に囲まれ、その裾野に家々が点在している中山間地域です。

このような地域では、大雨による土砂災害が発生しやすい条件下にあります。

一度、土砂災害が発生すると、瞬にして大切な生命や財産が奪われます。

特に、土砂災害警戒情報が発表さ

地震

れた場合や町が発令する避難に関する情報などとあわせて、早め早めの避難に心がけてください。

日本は世界有数の地震多発国で、さつま町でも毎年地震が発生しています。なかでも平成9年の県北西部地震では震度5強を記録し、約1千5百棟の住宅が被害を受けました。地震が何より恐ろしいのは、突然起こることです。地震がいつ、どこ

■災害時の問い合わせ

さつま町役場 ☎53-1111

○避難所に関すること

・総務課 内線2215

○土砂災害に関すること

・建設課 内線2252

・耕地林業課 内線2432

○環境衛生に関すること

・環境課 内線2127

・さつま町環境センター

☎53-0013

・さつま町クリーンセンター

☎53-3111

○道路交通に関すること

・建設課 内線2254

・県北薩地域振興局建設部

☎23-5151

○災害時要援護者避難支援窓口

☎52-4690

○停電に関すること

・九州電力(株)川内営業所

(コールセンター)

☎0120-986-802

地震に対する備えは？

○家具を安全に配置する

○家具類の転倒・落下を防止する

○窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る

○家屋や塀の強度を確認する

○非常用品を備える

地震、その時どうする？

○グラツときたら身の安全を確保する

○素早い消火と火の始末をする

○あわてて外に飛び出さない

○門や塀には近づかない

○避難の前に安全を確認する（電気・ガス）

安全点検

町では、がけ地の崩壊などにより住民の生命に危険を及ぼすおそれのある区域に建っている危険住宅を、安全な場所へ移転促進するため「がけ地近接等危険住宅移転事業」を推進しています。

この事業は、危険住宅の除却等と新たに建設する住宅（購入も含む）に要する借入額の利息に対して補助金を交付するものです。

特に、大雨などによりがけ崩れのおそれのある方は、自分の家は安全か再点検し移転の必要はないか検討してみてください。

がけ地近接等危険住宅移転事業のお問い合わせは、建設課建築係へご連絡ください。